

授業計画

| 科目名 | 成人看護学概論 | | 単位数(時間) | 1 単位(30) | 履修時期 | 1 年次 |
|--------------|---|---|---------|----------|-----------------------------------|------|
| 科目 目標 | 1. 成人期にある人を生活者としての視点からとらえ、成人について理解する 2. 成人の健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する 3. 成人を支える看護について看護理論を活用した看護アプローチを理解する | | | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | | 形式 | 担当教員 <small>*実務経験のある教員</small> | |
| 第 1 回 | 成人期にある人の理解 | 成人看護学とは 成人期にある人の理解 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 2 回 | | 成人にとっての「その人らしさ」とは 成人の発達段階・発達課題の特徴と役割 成人を取り巻く現代社会の特徴 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 3 回 | 成人の健康に関する指標 | 成人の生活と健康 健康指標からみた成人の理解 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 4 回 | 成人の健康の保持増進のための支援 | 成人の健康の目標と健康課題 健康の保持増進のための取り組み | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 5 回 | 成人の健康の保持送信のための支援 | 生活と健康を守り育むシステム 保健・医療・福祉にかかわる施策 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 6 回 | 成人教育 | 成人教育とは 成人教育の概念と特徴 エンパワーエディケーション アンドラゴジー理論 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 7 回 | 看護理論を活用した成人看護のアプローチ | 成人が生きているを支える看護 成人が生きていくを支える看護 危機理論 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 8 回 | | 成人が病とともに暮らすを支える看護 病みの軌跡 健康信念モデル 自己効力 行動変容ステージモデル | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 9 回 | | 成人が障害とともに暮らすを支える看護 セルフケア理論 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 10 回 | | 成人がその人らしく生きるを支える看護 死への軌跡 全人的苦痛 意思決定支援 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 11 回 | 成人の健康を支える支援 | 成人の健康を守るプロジェクト① 身近な成人の健康について考える | | 演習 | 専任教員* | |
| 第 12 回 | | 成人の健康を守るプロジェクト② 生活のリサーチと健康課題の検討 | | 演習 | 専任教員* | |
| 第 13 回 | | 成人の健康を守るプロジェクト③ 健康課題に対する改善策の検討 | | 演習 | 専任教員* | |
| 第 14 回 | | 成人の健康を守るプロジェクト④ 生活改善に向けた改善策の提案と結果 | | 演習 | 専任教員* | |
| 第 15 回 | 評価 | 自己学習時間 (1h) 修了認定試験 (1h) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 成人看護学① 成人看護学概論/成人保健 メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 (一般財団法人厚生労働統計協会) | | | 評価 方法 | 筆記 100 点 | |
| 備考 | | | | | | |

授業計画

| 科目名 | 生命の危機状況にある人の生きているを支える看護 | | 単位数 (時間) | 1 単位 (30) | 履修 時期 | 2 年次 |
|--------------|---|---|-------------|-----------------------------------|----------|------|
| 科目 目標 | 1. 生命が脅かされている人の「生きている」を支える看護が理解する 2. 「生きている」支えるためのアセスメントに生かす臨床推論技術を理解する | | | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 形式 | 担当教員 <small>*実務経験のある教員</small> | | |
| 第 1 回 | 生命の危機状況にある人の基本的看護 | 生きているを支える自然治癒力 生体侵襲における身体の反応 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 2 回 | | 生きているを尊重するための看護 早期回復にむけての看護 全人的苦痛と緩和 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 3 回 | | 生きているを脅かされている家族の看護 家族のアセスメントと看護 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 4 回 | | 生きているを支える自己実現のための看護 倫理的諸問題 考え方とその対応 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 5 回 | 生きているを脅かし治療を必要とする人の看護 | 救命救急を必要とする人の看護 救急看護が必要な人の理解と体制 検査・処置時の看護とアセスメント | 講義 | 認定看護師* | | |
| 第 6 回 | | 呼吸障害と人工呼吸器療法の看護 呼吸不全 人工呼吸器看護 | 講義 | 認定看護師* | | |
| 第 7 回 | | 循環障害と看護 心拍出量の調節 ショック | 講義 | 認定看護師* | | |
| 第 8 回 | | 集中治療を必要とする人と家族の看護 心筋梗塞・心不全 | 講義 | 認定看護師* | | |
| 第 9 回 | | 集中治療を必要とする人と家族の看護 熱傷の状態にある人の看護 外傷の状態にある人の看護 中毒の状態にある人の看護 | 講義 | 認定看護師* | | |
| 第 10 回 | 臨床推論のプロセス | アセスメントに生かす推論技術 アセスメントの段階・方法 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 11 回 | | シミュレーション学習① | 演習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 12 回 | | シミュレーション学習② | | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 13 回 | | 演習時には、各状態に関連した疾患及び観察項目などの事前学習が必要となる。シミュレーション学習は胸痛・呼吸困難・急性腹症などでシナリオ設定する。 | 演習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 14 回 | 専任教員* (看護師) | | | | | |
| 第 15 回 | 評価 | 自己学習時間 (1h) 修了認定試験 (1h) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 医学書院 写真でわかる臨床看護技術②アドバンス | | | 評価 方法 | 筆記 100 点 | |
| 備考 | | | | | | |

授業計画

| 科目名 | 手術を受ける人の生きていくを支える看護 | | 単位数 (時間) | 1 単位 (30) | 履修 時期 | 2 年次 |
|--------------|--|---|-------------|-----------------------------------|----------|------|
| 科目 目標 | 1 手術療法を受ける人と家族の特徴について理解する。 2 手術療法を受ける人とその家族の「生きていく」を支えるための看護を理解する。 3 周手術期にある人の「生きていく」を支えるための看護の実際を理解する。 | | | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 形式 | 担当教員 <small>*実務経験のある教員</small> | | |
| 第 1 回 | 周手術期看護 | 周手術期の看護 周手術期にある人の「生きていく」 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 2 回 | 手術前期の看護 | 意思決定支援 術前オリエンテーション | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 3 回 | | 全身状態のアセスメント ・手術・麻酔が身体に及ぼす影響 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 4 回 | | 手術前期の看護の実際 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 5 回 | 手術期の看護 | 手術室の環境、麻酔中の看護 手術室看護師の役割、手術室における安全管理 | 講義 | 外部講師* (or 看護師) | | |
| 第 6 回 | 手術後の看護 | 術後の病床環境 モニタリングとアセスメント 術後合併症予防と回復への看護 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 7 回 | 創傷治癒過程と ドレーン管理 | 創傷の治癒、術後感染症への看護 ドレーン管理 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 8 回 | 腹腔鏡下手術を 受ける人の看護 | 腹腔鏡下手術における看護 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 9 回 | 胸腔鏡下手術を 受ける人の看護 | 胸腔鏡下手術における看護 (肺がん) ・胸腔ドレーンの管理 | 講義 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 10 回 | 開腹手術を受け る人の看護 | Case learning① 事例紹介 (胃がんまたは大腸がん) 周手術期を支える看護理論と計画 情報収集とアセスメント | 演習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 11 回 | | Case learning② 看護問題と援助 | 演習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 12 回 | | Case learning③ 術後患者のアセスメント 「術後患者の観察とアセスメント」 | 校内 実習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 13 回 | | Case learning④ 回復を促進するための看護 「早期離床の援助」 | 校内 実習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 14 回 | | Case learning⑤ 障害の適応に向けた援助、 退院支援に向けた看護 | 講義 演習 | 専任教員* (看護師) | | |
| 第 15 回 | 評価 | 自己学習時間 (1h) 修了認定試験 (1h) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者 の看護 | | 評価 方法 | 筆記 70 点 レポート 30 点 | | |

授業計画

| 科目名 | 病とともに暮らすを支える看護 | | 単位数 (時間) | 1 単位 (30) | 履修 時期 | 2 年次 |
|--------------|---|---|---|----------------------|------------------|----------------------|
| 科目 目標 | 1.病とともに暮らす人の特徴を理解する。 2.そのひとらしく暮らすための行動変容や治療を生活に組み込むための支援を理解する。 | | | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 形式 | 担当教員 *実務経験のある教員 | | |
| 第 1 回 | 病とともに暮らす人の理解 | 病とともに暮らす人の特徴 治療・療養行動に関わる主な理論・概念 セルフマネジメント能力を高めるための支援 ・教育的アプローチ ・チームアプローチ | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 2 回 | 肝機能障害とともに暮らすを支える看護 | 肝機能障害とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴 | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 3 回 | | 肝硬変代償期のセルフマネジメント支援 検査・治療を受ける人の支援 症状マネジメント | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 4 回 | | 肝硬変非代償期の支援 1)症状緩和の援助(肝性脳症・腹水・黄疸) 2)薬物療法 3)食事療法 | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 5 回 | | 腎機能障害とともに暮らすを支える看護 | 腎不全とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴 | 講義 | 専任教員* or 外部講師 | |
| 第 6 回 | | 病状コントロールに必要な支援 症状マネジメント 苦痛の緩和 社会的支援の獲得への看護 | 講義 | 専任教員* or 外部講師 | | |
| 第 7 回 | | 血液透析・腹膜透析の特徴 透析を受ける人への支援 | 講義 | 専任教員* or 外部講師 | | |
| 第 8 回 | | 糖代謝障害とともに暮らすを支える看護 | Case learning: 糖尿病とともに暮らす人の看護 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴 | 講義 | 専任教員* | |
| 第 9 回 | | Case learning: セルフマネジメント支援① 看護アセスメント | 講義 演習 | 専任教員 or 認定看護師* | | |
| 第 10 回 | | Case learning: セルフマネジメント支援② 看護アセスメント | 講義 演習 | 専任教員* | | |
| 第 11 回 | | Case learning: セルフマネジメント支援③ 指導計画の立案 | 演習 | 専任教員* | | |
| 第 12 回 | | Case learning: セルフマネジメント支援④ 媒体作成 | 演習 | 専任教員* | | |
| 第 13 回 | | Case learning: セルフマネジメント支援⑤ ロールプレイ | 演習 | 専任教員* | | |
| 第 14 回 | | Case learning: セルフマネジメント支援⑥ 評価 | 講義 演習 | 専任教員* | | |
| 第 15 回 | | 評価 | 自己学習時間 (1h) 修了認定試験 (1h) | | | |
| テキスト 参考図書 | 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 食品交換表 | 成人看護学 6 成人看護学 5 成人看護学 8 日本糖尿病協会 | 内分泌・代謝 消化器 腎・泌尿器 文光堂 | 医学書院 医学書院 医学書院 | 評価 方法 | 筆記 70 点 レポート 30 点 |
| 備考 | ※「糖代謝障害とともに暮らすを支える看護」の Case learning で看護過程の展開を行う。 | | | | | |

授業計画

| 科目名 | 生活機能障害のある人の暮らしを支える看護 | | 単位数 (時間) | 1 単位 (30) | 履修 時期 | 2 年次 |
|--------------|--|---|-------------|--------------|---|------|
| 科目 目標 | 1. 生活機能障害によって変化する成人のセルフケアを理解する 2. 生活機能障害とともに暮らすその人の生活の再構築のための支援を理解する | | | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | | 形式 | 担当教員 <small>*実務経験のある教員</small> | |
| 第 1 回 | 生活機能障害とともに暮らす成人のセルフケア | 生活機能障害とともに暮らす成人のセルフケア 生活機能障害とリハビリテーション 生活機能障害とともに暮らすための支援 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 2 回 | 循環機能障害のある人の生活の再構築のための看護 | 循環機能障害を有する人への看護 心肺機能の変化と活動への影響 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 3 回 | | 循環機能障害の検査・治療の特徴と看護 心臓リハビリテーション 回復期における支援 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 4 回 | | Case learning：心筋梗塞にある人の生活の再獲得のための援助 | | 演習 | 専任教員* | |
| 第 5 回 | 呼吸機能障害のある人の生活の再構築のための看護 | 慢性閉塞性呼吸機能障害を有する人への看護 呼吸の障害の検査・治療の特徴 | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 6 回 | | 呼吸リハビリテーション | | 講義 | 専任教員* | |
| 第 7 回 | 脳・神経障害のある人の生活の再構築のための看護 | 脳・神経機能障害を有する人への看護 合併症のアセスメントと予防 | | 講義 | 外部講師 or 脳卒中リハ ビリテーシ ョン認定看護 師* | |
| 第 8 回 | | Case learning：くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助（急性期から回復期へ） | | 演習 | | |
| 第 9 回 | | Case learning：くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助（維持期・生活期へ） | | 演習 | | |
| 第 10 回 | 排尿・排泄機能障害のある人の生活の再構築のための看護 | 排尿・排泄機能の障害のある人の看護 排尿・排泄機能の障害のアセスメント 排尿・排泄の調節機能の回復への援助 | | 講義 | 外部講師 or 皮膚・排泄 ケア認定看護 師* | |
| 第 11 回 | | ストーマ造設の看護 ストーマケアの自立に向けた援助 | | 講義 | | |
| 第 12 回 | | ストーマ管理とケアの実際（消化管ストーマ） ・スキンケア・装具交換と管理 | | 校内 実習 | 専任教員 | |
| 第 13 回 | 脊髄に障害のある人の生活の再構築のための看護 | 脊髄損傷による機能障害の発生メカニズム 機能評価とアセスメント | | 講義 | 外部講師* (看護師) | |
| 第 14 回 | | 脊髄損傷の回復過程 治療とリハビリテーション | | 講義 | | |
| 第 15 回 | 評価 | 自己学習時間 (1h) 修了認定試験 (1h) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 NiCE リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む 改訂 第 2 版 南江堂 | | | 評価 方法 | 筆記 100 点 | |

授業計画

| 科目名 | その人らしく生きるを支える看護 | | 単位数 (時間) | 1 単位 (30) | 履修 時期 | 2 年次 |
|--------------|---|--|-------------|-----------------------------------|----------|------|
| 科目 目標 | 1. 「その人らしさ」を捉え、その人らしく生きることを支援するための看護を理解する 2. 生と死について考えることができ、その個人と家族とともに「人が生きる意味」ついて理解する | | | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 形式 | 担当教員 <small>*実務経験のある教員</small> | | |
| 第 1 回 | 人間の生と死 | 人の生命、死と医療 死の準備教育 | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 2 回 | 緩和ケアの定義 と現状 | 緩和ケアとは 終末期医療に関する概念 エンドオブライフケア | 講義 | 外部講師* (or 認定看護師) | | |
| 第 3 回 | 非がん患者と緩和 ケア | 緩和ケアにおける動向 非がん性呼吸器疾患の症状と緩和 症状緩和の方法 | 講義 | 外部講師* (or 認定看護師) | | |
| 第 4 回 | 成人期にある人の、 その人らしく 生きるとは | 緩和ケアを必要とする成人の特徴 思春期・若年成人 (AYA 世代) における特徴 | 講義 演習 | 専任教員* | | |
| 第 5 回 | 緩和ケアにおけ る意思決定支援 | 死をめぐる倫理的課題 「事例展開」肺がんにある人のがん告知、倫理的 課題の検討 自己の死生観 | 講義 演習 | 専任教員* | | |
| 第 6 回 | 緩和ケアの実際 | 全人的苦痛の概要 全人的苦痛 (トータルペイン) 化学療法を受ける人の看護 | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 7 回 | | Case learning: 乳がんにある人の身体的苦痛の 緩和における援助 | 講義 演習 | 専任教員* | | |
| 第 8 回 | | Case learning: 乳がんにある人の精神的・社会的 苦痛の緩和における援助 | 講義 演習 | 専任教員* | | |
| 第 9 回 | | 霊的苦痛とは (スピリチュアルペイン) 霊的苦痛の緩和 | 講義 | 外部講師* | | |
| 第 10 回 | | Case learning: 終末期 (乳がん患者) における 苦痛緩和援助の実践とコミュニケーション | 校内 実習 | 専任教員* 外部講師 | | |
| 第 11 回 | 危篤・臨終・死亡 時の看護 | 危篤時の看護 臨終時の看護 | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 12 回 | | 死亡時の看護 | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 13 回 | 家族ケア | 家族のニーズ 家族成員、家族集団に看護師ができること グリーフワーク・ケア | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 14 回 | 死後の看護 | 死亡の手続き 帰宅時の援助 日本の臨終時、死亡時の慣わし グリーフワーク・ケア | 講義 | 専任教員* | | |
| 第 15 回 | 評価 | 自己学習時間 (1h) 修了認定試験 (1h) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 系統看護学講座 成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院 新体系看護学全書経過別成人看護学④終末期看護 | | 評価 方法 | 筆記・レポート 100 点 | | |